

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2016年
3月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

「主と共に大齋を歩む」

司祭 オーガンスチン 與賀田 光嗣



今年は二月十日の水曜日に大齋始日、灰の水曜日があり、大齋節が始まりました。

大齋節は、いわゆる、断食(節制)と施し、祈りの季節です。大齋克己献金に見られますように、自分の自己中心的な生き方を克服し、己に克つ、という印象が強いのではないのでしょうか。

確かにそれもそうなのですが、誘惑というものは、自分が何かを達成した、と思った時にやってくるものです。主イエスが飢えを覚えられたのは、悪魔からの誘惑があったのは、四十日の断食を終えられた後だ、ということ覚えたいものです。

私たちが持つある種の達成感。それを見て貰いたい、自分をわかって欲しいという思い。

これが、時には、自分の思い通りにしたい、自分が一番になりたい、他人はどうでもよい、という思いに繋がっていきます。

そんな時、「あ、今、自分は、これはやっちゃいけない」と「胸が痛む時」、良心が痛む時、誘惑を「覚える」のです。

克己、己に克つ、誘惑に打ち勝つ、自己中心的な生き方を克服する。こういった字面ですと、

なんだか「弱い自分」は駄目なんだ、強くならなくちゃいけない、というような気がしてきます。しかし、もう少し深く考えますと、弱い自分に気づく時、胸が痛む時とは、「これはやっちゃいけない」、「本当はこうした方がよい」、「神様が私に求めていることは何なのか」を知っているということなのです。

それは、神様の声を聞こうとして聞こえている、というよりも、ずっと隣りで神様が話しかけてくださっている、だから、たまになんとかそれに気づくことができると、気づくと、悩んだり、胸が痛んだりする、という

ことでしよう。ですから、誘惑を覚えるというのとは、悪いことではないのです。いわば、神様のお恵みなのです。神様がどんな時でも、あなたの側におられるという証拠です。

そして、誘惑を覚えるということは、同時に、あなたが誘惑と戦おうとしている証拠、あなたが神様に支えられて十字架の道行きを歩もうとしている証拠、主イエスがあなたと共に歩まれている証拠なのです。

だから主イエスは常に、「安心して行きなさい」と言われる。「わたしの軛は負いやすい」と言われる。十字架から逃げ出して、夕暮れのエマオへの道で、夕暮れの方から、沈み欠けの夕日からやって来られて、弟子たちと共に、彼らが逃げだそうとする夕暮れの方向へ、共に歩んでくださるのです。

弟子たちはその方が誰か気づきませんでした、共にいるようにお願いをし、主イエスは彼らのためにパンを裂かれました。

弟子たちの脳裏に、今までもことある毎にパンを裂き、与えられる主の御姿が浮かびました。十字架の上で、裂かれた主の御姿が浮かびます。今、なお目の前で、側で、パンを裂かれる主イエスの御姿に気づくのです。

「これはあなたがたのために与える私の体である」という言葉が心に響きます。

その時、日々の私たちの命が、主ご自身によって与えられているということ、常に主がおられるということ、常にご祈ります。

すると主の姿は見えなくなりましたが、もう弟子たちは心細くはありませんでした。彼らは沈みかけの夕日を背にして、どんどんと長くなる自分の影を見つめながら、暗い方向のエルサレムへと、歩み出したのです。

大齋節の歩みとは、荒れ野の四十日の歩みとは、あなたの人生の歩みとは、キリストと共に歩まれる道行きなのです。ですから、「安心して」、十字架と復活の道行きを、共に、祈りつつ歩んで参りましょう。

(高知聖パウロ教会牧師)

伝えていくこと 阪神淡路大震災21年記念

神戸聖ヨハネ教会では、1月17日(日)午前10時半より、阪神淡路大震災21年を覚えて聖餐式を行いました。説教者には、震災当時、当教会牧師であった中村主教をお迎えし、これまでのヨハネ教会の歩みに思いを馳せました。

また、午後3時から4回目となる「〜忘れない1・17〜ヨハネYOSENABEコンサート」が開催されました。「阪神淡路大震災を伝えていく。そして



て今、困難のうちにある方々を心に留める」という目的で始まったこのコンサート。今年も、出演者とお客様が一体となって『寄せ鍋』の具となり、気持ちを分かち合うことができたことを感謝いたします。尚、会場で寄せられた募金は、東北教区に繋がる幼稚園のため用いられます。

先日、寒波に襲われた日の朝、幼稚園へと自転車走らせていると、突然後ろに座っている娘が「しあわせ運べるように」※を口ずさみ始め、一緒に歌いました。起こった出来事と人々の思いを受け継いで、次の世代に伝えていくことの大切さを、「忘れない」という言葉と共に心に刻みたいと思います。

※神戸市内の小学校で音楽教諭を務める臼井真氏が、震災から2週間後、テレビに映る三宮の街の変わり果てた姿に衝撃を受け、作詞作曲したもので、多くの人々の心を捉えて希望の灯となり、神戸復興を願うシンボルになった曲。

(神戸聖ヨハネ教会信徒

谷田恵里)

倉敷聖クリストファー教会の歴史については、1985年(昭和60年)信徒12家族が津口和子伝道師を中心として、福山諸聖徒教会岡上典夫司祭に願い、倉敷会衆として週一度、倉敷のホテルを借り、他主日は伝道師宅で礼拝を守り続けたのが出発と

教会巡礼 倉敷聖クリストファー教会



なっています。

1994年5月4日付で教区付の倉敷伝道所が正式に認可され、倉敷に教会を建設すべく教区事業として2002年に「倉敷プロジェクト」、2004年に「倉敷伝道所宣教委」が発足し、多くの検討結果、元山

陰合同銀行の土地、建物、金額などが適当として購入、教会に改装しました。2006年7月17日に中村豊主教により開所式が行われ、この地に聖公会の祈りの場が与えられ、2010年には名称を「倉



敷聖クリストファー教会(伝道所)と命名し、名実ともに教会活動が出来るようになり、現在に至っています。

また信徒の提案により、週一度は中国語講座・太極拳教室の開講、また2013年から毎週

水曜日「ほっこりカフェ」の開催、ほっこりカフェの第2部として、毎月1回「幸せに生きるためにはキリスト教的人生観」の講話、「聖書から人生を学ぶ会」、最近ではほっこりカフェの第2部に「聖歌を歌おう」などを開催、教会を広く開放すると共に、ホームページの開設と充実、また年一度のバザーを通じて、ご近所や地域との親睦を図りつつ、宣教活動の一環としています。(平野一司祭)



マリア 永沼輝子 伝道師 逝去



叔母・ マリア永沼輝子 の想い出

降誕日の夕方、私の叔母であり、婦人伝道師であったマリア永沼輝子が老衰のため静かに息を引き取った。享年100歳。叔母の姉で5年前に103歳で亡くなったマリア國弘千江子に続き、姉妹で1世紀を生き延びたことになる。いつもニコニコしていて楽しい叔母であったが、一方で他人に安直に迎合せず心が強く勝気な面もあった。生前、「かがみもち」のよ

うな私の太鼓腹をシゲシゲと眺めながら、「そのオナカ、なんとかせな、ワタシのように長生きでけへんでえ」とよく言っていた。叔母は、私の祖父・國弘文吾の4人目の子供として、1915年岡山聖オーガスチン教会で生まれた。岡山聖オーガスチン教会は、國弘文吾が大阪・川口にあった聖三一神学校を卒業し、最初に赴任した教会である。叔母は、父・文吾の転勤に伴い、高知・赤岡を経て1925年から神戸に住むことになったが、1932年、その父が0歳から

25歳までの9人の子供を残して急逝。このため叔母は、母・エイの兄・永沼勝太郎が住んでいた静岡に身を寄せ、1940年には永沼勝太郎の養女となり、國弘姓から永沼姓になった。終戦前には神戸に戻ったが、兄弟姉妹と一緒に暮らしていた須磨の自宅が空襲で焼失し、命からがら避難した神戸聖ヨハネ教会で終戦を迎えた。戦前については、父や妹の病死、戦時体制等、様々な出来事を経験したはずだが、叔母は多くを語らず、たま話題になっても、淡々と、そして懐かしい思い出話をするように語っていた。

戦後も紆余曲折はあったものの、神戸聖ペテロ教会の推挙により1952年に婦人伝道師に認可され、高知聖パウロ教会、半田伝道所、神戸聖ペテロ教会、そして姫路顕栄教会で活動し、1968年に依願退職した。叔母が婦人伝道師として活動していたのは、およそ半世紀も前のことであり、今も健在な元同僚は飯塚さんと津口さんの両婦人伝道師くらいではなからうか。

当時は、神戸市内のすべての教会に婦人伝道師が配属されるといふ誠に贅沢な時代であった。私たち家族は、戦後、八代斌助主教の特別の計らいで、神戸・岡本に引越すまでの約20年間、神戸昇天教会の近くにあった旧女教師館に住まわせてもらった。飯塚さんは、私たちと一つ屋根の下で住んでいたし、叔母は津口さんとは特に仲が良かったらしく、教区会等で来神した折には、連れだって我が家に泊まりに来たりし、深夜まで話し込むことも多く、楽しかった思い出が一杯ある。

退職後は、特に親交の深かった姫路顕栄教会信徒・大澤義正さん一家に「大澤家のおばあちゃん」として迎えられ、大澤さんの世話になりながら我が家にも年数回は遊びに来ていた。その際には大澤家の話題をよくし、大澤さんの子息の成長を何よりの楽しみにしていたようだ。

叔母は90歳を過ぎても電車を乗り継いで姫路から我が家に遊びに来ていたが、2010年3月、私が身元引受人になって特養施設に入居することになった。血圧が高く、それが原因で施設入居後も脳梗塞を患ったことがあったが、持ち前の生命力で乗り切ってきた。最期を看取った大澤さんによれば、お気に入りの写真を自らの葬儀用遺影に指定し、臨終の日には、東京在住の私の妹から届いたクリスマス・カードを見取って永眠したという。

叔母は、「人生は試練の連続であり、一見、理不尽で受け入れ難い現実と直面することもある。しかし、そういうときでも自分を見失わずに、前を向いて快活に生きる。そうすることにより、苦かった過去も振り返れば懐かしい思い出になる」と実感していたように思う。遺族としてはもちろん一抹の寂しさはあるが、叔母に涙はふさわしくない。只々感謝するのみである。「事は成就した。私はアルファであり、オメガである。」(ヨハネ黙示録21・6)

(神戸聖ペテロ教会信徒)

ペテロ國弘安俊

鳩だより

〔敬称略〕

祝 洗 礼

11月15日(日)

ドロテヤ 藤井美子
松山聖アンデレ教会

12月25日(金)

ベテロ 牧岡広樹
神戸聖ミカエル教会

ルシア 川添遙奈
高知聖パウロ教会

1月24日(日)

クララ 高倉朱里
米子聖ニコラス教会

祝 堅 信

11月29日(日)

ドロテヤ 藤井美子
松山聖アンデレ教会

ミカエル 村上神一郎
テレジャヤ 村上寿恵

12月6日(日)

アンナ 米澤玲子
ヨハネ 宮城正太郎

12月25日(金)

ベテロ 牧岡広樹
神戸聖ミカエル教会

祝 聖 婚

2月6日(土)

ミカエル 村上神一郎
テレジャヤ 村上寿恵

ご 逝 去

1月1日(金)

マーガレット 小野登美子
明石聖マリア・マグダレン教会

1月7日(木)

ベテロ 村上忠愛

1月13日(水)

ペテロ 大東謙一
明石聖マリア・マグダレン教会

教 籍 移 動

11月15日(日)

Derrich Mitchell
英国国教会より

11月30日(月)

クリスチナ 佐々木 さゆり
福岡聖パウロ教会より

1月12日(火)

デボラ 高倉桃子
ダビデ 高倉 一
志木聖母教会より

米子聖ニコラス教会へ

西 四 国 伝 道 区

西四国伝道区では、1月9日

大洲聖公会

4月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2016年4月6日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 中原 康貴

*4月の記念逝去教役者

1日	執 事	パウロ	中村 四朗
2日	司 祭	パウロ	鈴木 尚夫
2日	司 祭	ヨハネ	小南 弘
5日	伝道師		岡井 ちえ
7日	伝道師		億川 八郎
11日	司 祭	パウロ	奥吉 一
11日	宣教師	メアリー	サンダー トヨ
13日	伝道師		井上 琢哉
13日	司 祭		荒砥 豊吉
15日	司 祭	ベテロ	山内 耕造
15日	司 祭	ジョン	マクドナルド
16日	伝道師		鶴野 瑛治
17日	司 祭		堀 六郎
19日	司 祭	ジョージ	ストロング
19日	伝道師		高山 ゆき
22日	司 祭	トマス	入交 源治
23日	司 祭		村田 里
23日	伝道師	マリア・マグダレン	神崎 幸子
25日	司 祭	ヨハネ	瀬山 岩雄
28日	主 教	ジョン	シンプソン
28日	主 教	ジョン	マ



神 戸 伝 道 区

(土)に松山聖アンデレ教会にて、伝道区委員会を開催されました。
伝道区会では、2015年の活動報告と会計報告、2016年の活動計画と予算について協議されました。
5月には、交流会を開催する予定。

2月2日(火)神戸昇天教会に於いて、神戸伝道区婦人会被献日聖餐式が、小南晃司祭の司式のもと、執り行われました。
礼拝では、小南司祭から被献日の意味と、同日が日本聖公会婦人会の記念日であることのお説教がありました。礼拝後には、昇天教会のホールで、昇天教会の婦人会の皆さんがご用意して

神戸教区青年交流会のご案内

日 程	3月20日(日)~21日(月)
会 場	神戸聖ミカエル教会、神戸教区会館
会 費	2,000円
プログラム	新青年歓迎会、今年度の予定計画、交わりの時など。申込は各教会へ届く案内をご覧ください。
締 切	3月13日(日)

下さった豚汁やお漬物の昼食会が開かれました。その後、テーブルごとに分かれてのクイズ大会などが行われ、楽しい交わりの時となりました参加者35名。
2016度は、姫路顕栄教会の婦人有志が当番となり、降臨節の黙想会、被献日礼拝の準備をしてください。これから、すべての女性たちの奉仕と活動を覚えてお祈りください。

お詫びと訂正

『神のおとずれ1・2月号』の鳩だよりで、12月17日の逝去者、小野勝哉兄が「呉信愛教会」となっていました。正しくは「岡山聖オースチン教会」です。謹んで、お詫びし、訂正いたします。